

ちよつといひ話

～ お他力 ～

力の差があるものの人間一人一人の力はしれてます。このこと故に自己中心的研鑽主義の小乗仏教から他力の中に自己を置き研鑽していく大乘仏教の教えを継承してきました。それは天地自然の恵み無しに人間は生きる事が出来ないからです。食事をする箸でさえ一人の力では出来ません。それは自然の恵みの木が必要になるからです。一人の力は弱くても大勢の他力が頂ければ動力機械の無い時代にも人力にて寺や城を造っています。現代は機械力によって時間的に早く色々の事が出来る様に成りました。しかしながらその機械に対し、もはや有り難いとも思わず、逆に金に傾き反動で物に感謝する気持ちが薄れてしまいました。人間は感情の動物と言われて来ました。感情をむき出しにするのも如何かなと思いますが、最近共生きに協調出来ず、すぐ切れる神経を持つ若者が増えているのも事実です。心にゆとりがなく、肝っ玉が小さくなってしまったのでしょうか？

十人力、百人力と協力して頂ければ力強い味方がありますが、最近では少子化が進み国の将来にも不安があります。力と言えば佛の世界にも十力と言うのがありまして、我々が身に付けると便利なものもあります。それは道理と非道理を区別出来る力ですとか、大衆の望みを知る力、本性を知る力、煩惱を断つ力、などは我々が生活していく上で役に立つと思います。その他にも地藏力、観音力、不動力、等々の仏様にお他力があり、現実に私達はおすがりしていますし、お詣りしながら自然に信仰を深めています。 安 鎮

善入院油掛地藏尊